

令和3年度 第1回 沖縄県 SDGs 専門部会 Planet（地球）部会
議事概要

日時：2021年12月22日（月）10:30～12:00

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

赤嶺委員、宇賀神委員、大城委員、齋藤委員、高林委員

（沖縄県）

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

それでは会議を始めさせていただきます。最初に委員の皆様をご紹介させていただければと思います。ご案内後一言、挨拶をいただければと思いますのでよろしくお願いします。まず、一般社団法人沖縄県産業資源循環協会会長、街クリーン株式会社代表取締役、赤嶺太介委員です。

（赤嶺委員）

只今ご紹介預かりました赤嶺でございます。私どもの協会は沖縄県の産業廃棄物処理を扱っている業者が集まる業界団体になっております。170社の会員がいる団体です。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

赤嶺委員ありがとうございました。続きまして環境省沖縄奄美環境事務所所長、宇賀神知則委員です。よろしくお願いいたします。

（宇賀神委員）

皆さんこんにちは、宇賀神と申します。今年8月に東京の新宿御苑から参りました。環境省自体は世界自然遺産登録地とか、国立公園、野生生物とか管理を担当させていただいています。施策としてはカーボンニュートラルとかローカル SDGs、地域循環共生圏などの政策を推進しておりますので、今回の沖縄 SDGs アクションプランづくりに貢献できればというふうに考えております。プライベートでは今年の夏来ましたが極力エアコン使用抑えたり自転車通勤とかを実践しておりますし、あと今回の骨子の中にも入っていますが沖縄らしさというところでは、久高島とか斎場御嶽を訪れたり、個人的には琉球横笛を習ったりしております。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして一般財団法人沖縄県公衆衛生協会、調査研究室広報活動班長、大城加代子委員です。よろしくお願いいたします。

(大城委員)

よろしくお願いいたします大城と申します。現在調査研究室広報活動班長として社内のホームページとネットワーク、IT 分野を担当しております。また、沖縄県地球温暖化防止活動推進センターと沖縄アジェンダ 21 県民会議の事務局として、気候変動に関する県民の普及啓発活動を主な業務としております。今週は浦添市役所にて地球温暖化防止展があり、パネル工事をしております。昨日は家庭の省エネ診断を 1 階のホールロビーにてさせていただきました。その時に SDGs の認識のアンケートを併せておこなったところです。一般の人にはこのホイールロゴが建築か何かに使うカラーコードですかと答える方、子供さんが「SDGs、SDGs。」と言うので知っているという方もいて、認識はまだまだだなという感じでした。皆さんよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして、沖縄国際大学経済学部地球環境政策学科准教授、齋藤星耕委員です。よろしくお願いいたします。

(齋藤委員)

皆さんこんにちは齋藤と申します。僕自身は生態学、生態学者でして、主には土の中の生き物の研究をしています。沖縄に来て 10 年ぐらいになります。沖縄の生物について詳しいかと言われるとちょっと口ごもるところもありますが、生物学、生態学、生物多様性科学の部分から何かお役に立てればというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、沖縄科学技術大学院大学副研究課長、高林美咲委員です。一言をよろしくお願いいたします。

(高林委員)

皆さんこんにちは。私、日本人みたいな名前ですけどもアメリカの日系人です。日本語がちょっと苦手です。私は珊瑚礁の生き物の分子生態学というのを専門にしていますハワイ大学で海洋科学を 15 年ぐらい教えていました。教授をしていました。OIST には 3 年ぐらい前に来ました。私が PAC やった時に、沖縄の珊瑚も取り入れて研究をさせていただきました。だから沖縄のサンゴ礁とか環境は自分に対してもすごく大事なものです。この会に入れていただいて光栄です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。大島順子委員は、本日は欠席と連絡をいただいております。ここからは進行役の方で議事を進めさせていただきます。

(進行)

皆様おはようございます。沖縄県企画部企画調整課 SDGs 推進室長の島津と申します。県の方では9月に SDGs を推進するために実施指針を策定して、また県民と一緒に、行うアクションプランを作っていくということで、今回皆様にたたき台を示させていただいております。広くアクションプランについてご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めてまいります。まず事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1を中心に説明させていただきたいと思います。資料2はアクションプランの骨子、資料3は県民アンケートとなっております。資料3は時間的な都合もあって情報共有という形にさせていただきたいと思います。後日お気づきの点があったらお知らせいただければと思います。なお、本日の議論の時間も限られておりますので、事務局から後ほど様式を送らせていただきますので、議論の中で言い足りないところとか、後日改めて意見として伝えたいというところがありましたら、後ほど送っていただくということでも結構です。本日可能な限り議論ができる時間を確保したいと思いますので、資料の説明はポイントを絞って説明させていただきます。

資料1の1ページ目にアクションプランの構成、プラットフォームの図が示されております。右の図の緑の枠組み委は沖縄県の体制です。SDGs 専門部会一つとして本日の地球部会を開催させていただいております。別にアドバイザーボード会議という全体的な議論をする有識者会議もあります。こういった枠組みとは連携する形で、企業や教育機関、市町村、県民など、様々な方々が参加するプラットフォームを来年度に構築する予定をしております。こういった取組を進めるにあたって、どういう方向で進めていくかをアクションプランとしてまとめていきたいというのが考え方になります。

アクションプランの構成ですが、今年の9月に実施指針というのを策定しました。県民みんなが SDGs を進めるにあたって、基本的な視点、考え方、方向性をまとめたものです。その中で基本理念というのがございます。また、沖縄県で2030年の将来像として、沖縄21世紀ビジョンの中で、五つの将来像を位置づけております。それに基づく優先課題というのを12の優先課題ということで、実施指針に盛り込んでおります。ここまでの既にある内容で、この優先課題に基づいて、2030年、沖縄はこういうふうになってほしいといった目標設定と、それに基づく SDGs のゴール、ターゲット、ローカル指標を設定し、実現に向けたアクションを整理していくことが今年度の検討の内容になっております。来年

度以降に具体的な取組を検討していくことになります。

次のページは、今どこまで検討が進んでいるか示す資料となっています。インプット情報としては、県民アンケートを9月27日から12月3日に実施し、1,686件の回答がありました。テキストベースで書き込んでいただく比較的労力の多いアンケートでしたら、多くの回答をいただきました。この県民アンケートの結果が資料3にまとめておりますので、後ほどご覧いただければと思います。その他、21世紀ビジョン、パブリックコメントは実施指針を検討する時のパブリックコメントにおける意見ですが、こちらも活用する形で整理をしています。新たな振興計画の色々な議論、方向性もインプット情報とさせていただきます。ゴール、ターゲット、ローカル指標は素案を作成する段階で設定していく予定です。このたたき台に対して先週12月16日にアドバイザリーボード会議の開催、12月中に5つの専門部会の開催、1月には関係団体、市町村に意見照会を行う予定としております。

次のページに骨子の基本理念、将来像、優先課題の内容を示しています。今回優先課題の中では主に優先課題⑦と優先課題⑥が関連すると思っています。また、SDGsは非常に全体関連する形で統合的に議論をすることが重要ですので、優先課題⑥、⑦に限らず、あらゆる分野についてご意見等いただければと思います。

一番関連するのはこの優先課題⑦になります。こちらは環境関係の内容になりますけど、この沖縄らしいSDGsの実現。これはイメージとしては2030年に目指す沖縄の姿といった目標となります。生物多様性の話、脱炭素の話、エコスタイル、ライフスタイルの話、循環型社会の話という大きく三つの項目でそれぞれアクションを整理させていただきました。この考え方についてはこれと17ページの次の18ページに県民アンケートの定量的なデータ、定性的な情報をつけています。は新たな振興計画の議論、その他、県のいろんな環境関係の計画等も含めて整理をさせていただいて、あくまでもたたき台としてこういった項目を整理させていただきました。書き方の変更も含め、これから検討していくということですので意見をいただければと思います。

優先課題⑥には、気候変動ということで、再生可能エネルギー、カーボンニュートラルの話、他にも交通網とか関係あります。この辺もライフスタイルという観点では関係すると思いますので、意見をいただければと思っております。

もう1点、資料4が優先課題とターゲットの一覧を整理したものになります。優先課題⑦、ページにすると11ページから12ページにかけての資料になりますが、ゴール6、11という形でリストアップし、169のターゲットの中から関連するものをピックアップしていくこととなりますが、実施指針を策定する際に整理させていただいた経緯がございます。

なぜこの資料をつけているかということですが、先週のアドバイザリーボード会議において、SDGsはグローバルな視点が重要で、17のゴール、169のターゲットといった、グローバルスタンダードな視点からSDGsの貢献、目標に関連するような形を意識して検討す

るべきとの意見をいただきました。これについては事務局の方で、素案まとめの作業の中で見直したいと思っています。今後、おいてグローバルスタンダードの視点をもって議論できればということで資料を共有させていただきました。

その他、アドバイザリーボード会議において統合的なアプローチが重要、その観点での現状認識、取組を議論すべきだとの意見がありました。そういった観点でも今後ご意見等いただければありがたいなと思っています。

また、声が届きにくいという方の意見収集をどうするのかという問題提起もありました。いろいろな支援団体の皆様を通じて意見を収集する形が一つやり方かなと思っていますがご意見等ございましたらと思っております。

(進行)

それではアクションプランの骨子たたき台の内容、事務局の説明がありました事項について広くご意見を頂戴したいと思います。最初は私の方からご指名をさせていただいてご発言を頂戴したいと思います。まず初めに宇賀神委員よろしいでしょうか。

(宇賀神委員)

ありがとうございます。優先課題⑦の17ページですが、大きな話としては「沖縄らしい」というところがすごく私は気になるというか注目したいと思っています。今後この下にゴールとかターゲットとか出てくるとは思いますが、拝見する中ではあまり沖縄らしいというところが見受けられない部分があるかなと思います。2030年までと限られた期間の中で、具体的な内容を提示するという必要があるのではないかなというところで、今回の表示されている文章と今後出てくるゴール、ターゲット、そこをどう結びつけるのかというのがすごく関心事項です。具体的なご指摘ではなくて恐縮ですが以上です。

(進行)

ありがとうございます。事務局からコメントがありますか。

(事務局)

宇賀神委員からのご意見については、アドバイザリーボード会議でも出た視点で、事務局の方でも意識して検討させていただきたいと思います。

(進行)

続きましてそれでは赤嶺委員、ご意見を願います。

(赤嶺委員)

ありがとうございます。細かい話になるかと思いますが、17ページの文での no. 3の自然

と調和したライフスタイルという点において、2番目に食品ロスの削減に向けてということがあります。食品ロスは食べられる商品を食べずに捨てられているという問題だと思います。食品系の廃棄物ですね。食べられるものではなくて食べられた後とか、残り物とか、食品系の製造企業から発生する廃棄物の再資源化を官民が連携して取り組む必要があると思います食品系のゴミには地域によって、市町村によってその処理方法が違うと思いますが、焼却処理されているのが現状ではないかと思います。濡れているものを燃やすというのはエネルギーも結構使っているんで、ちょっと深く入り込んだ形の記入をお願いしたいと思います。

プラスチックの方も、脱プラスチックの部分においても完全に脱プラスチックというのは難しいと思いますので、極力使用量を削減するとか、生分解性プラスチックもありますので、そういったものを活用していく、資源化に持っていく、例えば土に還っていきますので堆肥化、生ゴミをそういった物に入れることによって堆肥化がうまく促進できるといった形です。プラスチックについても、循環型に繋がっていくようなプラスチックの利用方法であれば、県内で資源として逆に生まれ変わる、資源として捉える方法もあると思います。そういったところから製造業を育て、消費者に意識を持っていただき、購入いただくことで、地産地消にもつながっていくと思います。プラスチックの脱プラという表現ではなくて、利用方法についてももう少し深く入ってってもらえたらと思います。

(進行)

赤嶺委員ありがとうございました。それを受けて事務局からお願いします。

(事務局)

資源の有効に使おうという観点での食品ロス。つまり、食べられる物を捨てないでおこうという観点ですけれども、SDGs の観点から廃棄物の排出自体を大幅に減らしていこうというターゲット、目標もあります。食品廃棄物は含まれますし、アプローチとして排出を減らしていくことと、再利用、リサイクルというところは、ゴミの処理量を減らしていくことに繋がります。食品ロスは一般の方からすると大きく捉えていらっしゃる方が多いと思いますので、トレードオフとイノベーションの連携みたいな形として整理ができるように検討させていただきたいと思います。プラスチックについても、例えばコンビニエンス関係の会社の一部では完全にペットボトルをリサイクルするシステムを構築し、回収しているところがあります。県民みんなで認識を持って、しっかり資源を回収し、リサイクルしていくという仕組みがあれば、プラスチックの利用の中でまた分類されていくと思いますし、県民の皆様を知っていただいて、選択していただくということも大事と思っています。この辺をアクションの中で盛り込めないかどうか工夫をさせていただきたいと思います。

(進行)

続いて OIST の高林委員からお願いします。

(高林委員)

先ほど宇賀神委員がおっしゃっていた通り、沖縄らしいというか島らしいことができると思います。ハワイの経験が多いので、島のことを話したいと思いますが、島のスケール規模でサステナビリティが実現できるソリューションが出来れば、地球の規模でもスケールアップすることができると思います。大陸の技術を島に入れて無理やり頑張ろうとすると無理なことが沢山あると思います。サステナビリティに関しては、島で考えついた技術をスケールアップして大陸のシステムにできるというのは世界的にも話されています。日本で言うと沖縄は島の県ですので、沖縄が一番先に立つてできることだと思います。

私は教育者なので、自然保護は本当に言うと、自然は放っておけば自分で頑張れるものであり、自然の保全は人間の管理の問題なのです。人間の考え方を変えていこうというふうになると、私たちの世代、私たちの子供の世代、孫の世代が大事になります。両親が分かっているなくても「子供から SDG と聞いているので分かりました」という話がありました。アクションプランの中でどうやって教育につなげていけるかが大事です。教育に繋がると子供達自身もスキルアップされますよね。その教育のヒューマンリソースのサステナビリティについても良くなるということで、OIST のアウトリーチの中で、沖縄とハワイのコラボレーションをしました。ハワイでは自分のアイデンティティ、ハワイの元々の島の人だというアイデンティティが高いので、沖縄の人でも私は何世代もずっと島で生き延びてきて、豊かな暮らしもできたご先祖様の子供ですよということが、自分で分かったと本当に子供達の間もピカッとなります。ハワイの皆様の子供たちのことを自分のプライドというか、アイデンティティを聞かせてくれて、私も自分の沖縄の島を愛することができましたと言ってくれました。自分たちがどうやって育っていこうかというのをやれば、すごく楽しいかなと思います。

(進行)

高林委員、ありがとうございました。ハワイとの交流のお話も聞かせていただきました。教育、非常に重要な視点だと思います。事務局からコメントございますか。

(事務局)

教育の話は重要だと思います。ハワイの件の取り上げていただきました。沖縄とハワイは色々やり取りも昔からあり、お互いのやっていることを共有しながら、沖縄は離島もありありますので、離島でアプローチすることをスケールアップすることも地域としてアプローチがしやすいと思います。エネルギー関係がちょっと先行して色々な実証事業が始まっています。ヘルスケア、環境、教育など、離島でいろんなことをトライして、スケールアップし

ていくというところが SDGs の太平洋諸国やミクロネシアなどの課題解決にも繋がっていく。そういう意味でも国際交流とかに関連すると思いますので、そのような観点も視野に入れながら検討したいと思います。

(進行)

大城委員、よろしく願いいたします。

(大城委員)

気候変動対策、温暖化対策というこのイメージは、アンケートを県内でも取らせていただいたのですが、生活の質を脅かすと感じる割合が日本は6割ぐらい占めていて、一方世界は27パーセントとなっています。温暖化対策が生活の質は高めるという認識は世界が66パーセントに対し日本が17パーセントとなっていて、日本では圧倒的にマイナスイメージが付いて回っています。このイメージを打破する必要があると思います。またつい数年前までは低炭素と言っていたものが今では脱炭素が当たり前聞くようになってきました。脱炭素は今までのようなコツコツとエコな節電とか節約とかそういったことでは到底達成できるような目標ではありません。常識を覆すことが必要になってきます。例えば、今はコロナ対策でマスクは当たり前、常識となっていますが、2年前は違いました。DX、デジタルトランスフォーメーションってよく聞きますけど、この社会の大転換が必要な時だとすごく感じていて、そういった内容をこのアクションプランの中にうまく当てはめることができたら、沖縄として先進事例・最先端としていけるのではないかなと思っています。

この17ページのところで表現が気になったのがありまして、2の脱炭素社会実現のところで再生可能エネルギーの1行目ですね。ゼロエネルギーハウズビルディングとなっている、ZEH、ZEB がありますが、個人的には「ZEH、ZEB」というよりは「ZEB、ZEH」がしっくりきます。しかし、一般向けとして最初に住宅、ハウスが先に来ているのでこのような表現になっていると考えると問題はないかと思っています。

他には、スマートグリッドシステム導入、促進すると入っていますが、その4行下にEVとかPHEV導入のことが書かれてきて、電気自動車のことが書かれてきているので、分散型電源、小規模電力系統ですか、マイクログリッドという用語も中に取り組んだらいいと思います。島国でもあるので、マイクログリッドという考え方も重要かと個人的に感じました。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

デジタルトランスフォーメーションの話も含めた変革の話がありました。SDGs 自体が基本理念だとよく誰 1 人取り残さない、Leave No One Behind がよく注目されますけども、国連のアジェンダでは、トランスフォーメーション、変革が大きなテーマになっています。脱炭素というのは今の延長線上だとなかなか難しいので、思い切った変革のアプローチというのは大事かと思しますので、色々なアプローチも含めて検討したいと思います。

マイクログリッドについては、宮古島の来間島の方で沖縄県の実証事業として実験をやっている、これを横展開、普及していこうというアプローチをこれから取っていく方向です。離島ではマイクログリッドは非常に有効なアプローチだと思いますので、具体的に明記させていただく方向で検討します。分散型エネルギーの中で、EV、PHEV というのは非常に重要なツールになっていきます。もう一つのアプローチとして二酸化炭素、CO₂の排出割合からすると全国と比べるとご存知のとおり沖縄県は運輸部門の割合が非常に高く、沖縄の CO₂の排出というのは車からの排出割合が大きいです。政府の方もこの EV 導入は税制優遇を拡充し、導入を促進していくという動きもあるので、車社会の沖縄において EV カーの普及促進は重要という観点で項目立てをしています。ただ、分散型エネルギーの観点で整理ができないかは検討させていただきたいと思います。

(進行)

続きまして、沖縄国際大学齋藤委員からコメントよろしくをお願いします。

(齋藤委員)

お金の循環、物質の循環が両方成り立って人間社会というのは存続可能となるかなという気がしています。1 人の生活者の視点で言うと、沖縄は内地に比べても生活に要するコストは高い、例えば燃料代も最近特に高く、食品も高い。生産地と消費地がこの内地とか輸入品に頼るという形をとっていて、県外へのお金の流出を招き、県内で循環していないところが気になるところです。もしこれを再エネ導入とか EV とかを通じて燃料の観点から県外へのお金の流出を減らすと県民の生活としても向上するかなと思います。食品面で見ても県の別の委員会で農家の世代継承が大変という話をお聞きました。県内で作ったものを県内で消費するということで物質の循環の面、お金の循環の面でも良いのではないかと感じたところです。具体的な事で言うと、食品ロスの削減は大事けども、農林水産業の面から見た地産地消の推進は、ここに入れるか他に入れるか、もう入っているのかもしれないけども、いいなと感じました。

優先課題⑦の中で言うと希少生物のモニタリングが入っておりますが、同時に県としては侵略的外来種。かつてはマングースが問題となりました。最近で言うと植物のツルヒヨドリが問題になりました。島嶼環境というのは外来種に弱いという特性がありますので、外来種対策ということがあってもいいかなと思います。

もう一つは沖縄生物学会とかシンポジウムとかの話を書きますと、北部のヤンバルクイナとか希少動物が、人間が捨てた猫によって脅かされている。不妊化手術の対策が動物の福祉という面でも環境保全という面でも重要だなと個人的に感じております。

(進行)

齋藤委員ありがとうございました。確かに外来種対策、猫の対策、そして地産地消。非常に重要な視点かと思います。事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

お金と資源の循環の話は重要なテーマでして、沖縄県内の生産性の、経済を強くするという意味で、地域の経済循環つまり非常に循環率が低いという課題があります。地域循環率を高めるという観点では、農林水産物に限らず色々なものを沖縄の中で循環させていく。これは動脈的なアプローチもありますし、赤嶺委員からあったような静脈的な資源の循環型社会というアプローチもあると思います。地域で回していくというのは経済と資源の観点で非常に重要だと思っております。環境面からもそのようなアプローチは効果があると思っていて、トレードオフ的なもの、統合的なアプローチという観点が重要だと思います。今後のアプローチやプロジェクトとかの中で、アプローチしていくということも必要と思っていますので、色々な施策も含めて検討材料にさせていただければと思います。生物多様性の観点での外来種対策、猫の不妊化対策は重要ですので、自治体だけではなくて県民の皆さんにもご理解いただいて、アプローチしていくことが大事だと思います。

(進行)

これからは皆さんに自由にご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。それでは、宇賀神委員お願いいたします。

(宇賀神委員)

優先課題⑦のところ、保全が中心に書かれておりますが。それは島嶼の生態系とか含めて脆弱だということで当然ですが、保全の次に活用という部分もしっかり入れていただければと考えています。他の分野で自然環境を活用するサステナブルツーリズムがありますけども、島外に出ていたものをそういった形で取り戻す、人の生活とリンクすることで、地域活性化や地域の課題が解決できるというところが必要なのかなと思います。

もう1点、観光客がいっぱい来ていただくというのは沖縄の経済にとってはとても重要だと思うが、島のキャパが書かれていないです。どんどん人が来ればいいというわけではないと思います。例えば、ネックとなるのは水資源です。観光客がいろんな形で水をたくさん使われますけども、無尽蔵に使えないというところがあるので、そういったところが書かれているといいと思います。

もう1点は生態系が守られると、Eco-DRRという生態系を活用した防災・減災対策、例えば防風林とか珊瑚礁。台風被害が多い沖縄の中では自然の形の中で軽減するような機能があるといった観点はあればいいと思います。

(進行)

宇賀神委員ありがとうございます。事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

そういった観点で検討、再整理をしていきたいと思います。特に世界自然遺産もそうですし、国立公園、国定公園の指定もさせていただいて、利活用というところも大きなテーマだと認識しております。地域を巻きこんだエコツーリズムのあり方など、各地で色々議論がおこなわれているところですので、この中でも整理をしたいと思います。ありがとうございました。その他のご意見についても整理させていただきたいと思います。

(進行)

ありがとうございます。それでは他の委員の方から追加のご発言お願いいたします。ではOISTの高林委員、お願いします。

(高林委員)

質問していいですか。1ページの schematic、図で書かれていることについて理解したいです。私はアクションに興味があります。これだけ色々話して時間かけるのもいいが、結局何するかということが気になります。その前に、ここまで調査させていただいてデータの分析も素晴らしいと思います。ここまでやっているし、本当に言わなきゃいけないことは入っていると思います。これからアクションをするにはどうしたらいいかというのがちょっと気になっています。ここの OPG の方から地域の市町村に行きますよね。どうなるのですか。この OPG で決めた SDGs でやりましょうということやっていますよというブランドみたいになって、何かファンディングが出るとかそういうことなのでしょうか。

(進行)

事務局からお答えしたいと思います。

(事務局)

アクションプランについては、こういったことをやっていきましょうねというベクトルを揃える意味での目標設定という形になります。プロジェクトはこれからになりますが、マルチステークホルダーのプラットフォームということで、この中で色々なミーティング、プロジェクトのプランニングというのをやっていって、このアクションに沿っているんな

ものがいろんな人たち、マルチステークホルダーの連携の中でアプローチしていくことを来年度以降予定しています。こういったアプローチに対してファイナンスのサポートもできないかということで、ファイナンス系の企業とも意見交換をしながらアプローチをしていて、人とお金の面からつなげていくというアプローチをここでやっていきたいです。足りていないところもあると思いますけども、どのような形で進めたいと思っています。

(進行)

ありがとうございます。大城委員お願いします。

(大城委員)

アクションプランの15ページの1、災害についてのところですか。防災ですが、実は阪神だとか東北の震災の時にこのボランティアの力というのはかなり大きかったと思います。今、防災士の資格とかで市町村から助成金が出たりして進めているところかと思っています。取得に高い費用を要しますが、内容は良かったと思っています。ここに書いてあるのは行政側からのアクションみたいな感じに捉えられますが、防災、防災士の中では自助、まず自分の命が助かることが最優先事項です。次に、周りの人たちを助けていく共助、そして協働とこの三つを掲げて防災という風に勉強しました。そうすると自分事としてすごく感じることができました。まず今からすぐにやらないといけないことは何なのか、家具が倒れないようにするだとかローリングストックという考え方ですね。これまでの私の中での常識というのは防災バッグみたいなものを準備して、何年かの賞味期限があるから、それを確認して変える。そんな感じで思っていました。そうではなくて日常の中でそういう防災の意識を持ってやっていく。気候変動に適応できるような力をつけていかなければいけないので、そういった1人ひとりがどうやって防災をしていくのか、自助、共助、協働の考え方もうまくこの中に入ってくると、我が事として、読んだ時に捉えられるのかなと思います。

(進行)

ありがとうございます。SDGsは自分事として捉えることが重要な視点です。大城委員のお話を聞いて、日常生活でも考えなきゃいけないと感じました。事務局からコメントあればお願いいたします。

(事務局)

大城委員がおっしゃるところは重要なところだなと思っていますので、整理をさせていただきます。優先課題のところインフラ色が強くて、これはハード的なインフラとするのか、ソフトチックなことも含めてインフラと言っているか分からないが、そういったアプローチをするのかということについては議論が分かれたところです。21ページの方を見ていた

くと、21 ページに優先課題の⑨に共助・共創型の安全安心な社会があって、災害のところで防災力というところでのボランティアなどを記載しています。沖縄は地域の防災組織が少なく、課題として上がっていますので、分かりやすくという観点も含めて検討させていただきたいと思います。避難がすぐできない方を地域で支えるアプローチも重要とされていて、コミュニティづくりも大事と思っています。

(進行)

ありがとうございます。赤嶺委員から手を上げていただいております。
よろしく申し上げます。

(赤嶺委員)

私もちょっと質問を加えた中で、何故それをしていかないといけないのかという話をしたいと思います。沖縄県でSDGs宣言をして、県全体で取り組んでいこうということだと思いますが、この考え方に対して市町村は賛同しているのかどうかを知りたいです。我々は廃棄物を取り扱う仕事をしていますので、行政が関連している廃棄物もあれば、我々のような民間で取り扱う廃棄物もあります。企業はイメージとかブランディングを考えていくと、SDGsに向かっていくのは必然的だと思います。家庭から出てくるような食品系の廃棄物は一般的に行政が取り扱う分野になっており、市町村がSDGsの考え方に賛同していないと、この分野の取り組みが進まないというふうに、直接事業をしている者として感じているところです。県と市町村が同じベクトルを持たないといけない。民間はどちらかという方向向かっていますが、それが市町村の分野になると、予算がないからとか、なかなか難しいという話からスタートします。

実際、我々が民間で扱うのは産業廃棄物です。家庭から出てくるもの、ホテルや飲食業などから出てくる食品系廃棄物は一般廃棄物になり、行政の管轄になっています。食品系廃棄物のほとんどが焼却処理されていますが、堆肥や飼料にリサイクルしていこうとしても、市町村の許可の中でしか仕事ができないので、抑えられている感じがあります。SDGsの大きな枠の中で、市町村ともベクトルをあわせていただいて、具体的なことはどうしていくのかということにおいて、その部分にもしっかりと目を当てていくことが必要だと思います。

先ほども高林先生もおっしゃっていましたが、プランの話ではなくて実行だと思えます。SDGsも2年3年前に宣言している中でまだプランのところなのかというところにおいても、遅いのではないかと正直思っています。世の中のスピードは早くて、スピードに追いついていくということが求められている。SDGsの中には、循環型サーキュラーエコノミーという言葉もあり、この廃棄物の観点で言うとそこに向かっていくのは必然だと思います。世界有数の環境、循環型経済の先進地、こういったものを作っていけば、スケールアップしやすいと思います。沖縄から島嶼の国、地域にもパッケージ化して輸出していくと

いった戦略も描けていくと思いますし、それが最終的に世界の平和にもつながっていくとか、全部紐付けしていけると思います。県と市町村の行政担当の縦の部分でしっかりと繋いだ状態で、方向性が合えば我々も動きやすいと思います。

(進行)

赤嶺委員、貴重なご意見をありがとうございました。県だけではなくて市町村との連携が鍵となってくると思います。この点について事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

非常に耳の痛いご意見です。SDGs という大きな話で言うと県と市町村はベクトルが概ね一緒になっています。県内には41の市町村がありますが、全市町村との連絡会議というのを今年も何回かやって、情報共有をしておりますが、ほとんどがSDGsに取り込む方向です。世の中の流れ、気運、企業の皆様のアプローチ、大学の先生方の関心、マスコミのアプローチによる影響も強いかなと思います。市町村の議会でもSDGsがテーマの質問が取り上げられる機会が増えていて、市町村でも関心が高まっていると思います。一方、具体的なアプローチになると何をしたいかと悩んでいるところがあるかと思っています。アクションプランというのは市町村の意見を踏まえながら検討するプロセスを入れますので、市町村と共有しながら取組を広げていきたいと考えています。

もう一つは、プロジェクトや具体的な取組を立ち上げていく話と思います。例えば、食品廃棄物のところは食品ロス削減と絡めて、具体的な取組を立ち上げていく、賛同する市町村を増やしていきながら枠組みを広げていくといったアプローチが重要と考えていて、高林委員の質問の中でプラットフォームの話がありましたけど、市町村にも入っていただいてグループを作って具体的なアプローチとかができないかなと思っています。資源循環型、非常に食品廃棄物については問題意識を持っていますので、アプローチを検討していきたいと思います。

(進行)

ありがとうございました。沖縄国際大学の齋藤委員、お願いいたします。

(齋藤委員)

質問さっきし忘れたなというところですけども、カーボンオフセットについて具体的な想定がありましたら教えてください。

(事務局)

カーボンオフセットについては、カーボンのトレードの部分というところはあまり今のところ捉えていないです。カーボンオフセットの中でのCO₂排出権の取引というところは、基

本的にこういうことをやると全て電気代に跳ね返ってくるというアプローチになると思っています。基本的には再生可能エネルギーとか次世代エネルギーとっていますが、太陽光発電が中心になると思います。住宅の屋根の第三者利用などのアプローチが一つ、先ほど大城委員から、エネルギーマネジメントシステムによるビルディング、ハウジングでの再生可能エネルギー導入、マイクログリッド、分散型エネルギー、EV 等も入れていくような社会が先行していくのかなと思います。将来に向けた水素エネルギーのアプローチも始まっていますが、沖縄だけではなくて全国的な動きになると思います。カーボンオフセットという大きくこの二つですけど、最後に水素エネルギーを作るために化石燃料、CH 系のものから触媒で分解して水素を取り出す、同時に二酸化炭素、カーボンが出てきますが、その資源化、リサイクルしていくというアプローチは沖縄電力でもビジョンとして示していて、技術革新、イノベーションが重要になってくると思います。

(齋藤委員)

同じ行の所の吸収源は何かお考えはありますか？

(事務局)

吸収源は先ほど言った CO₂の吸収というアプローチが一つあります。もう一つが森林とか自然環境での吸収が重要で、森林保全や緑化という言葉をよく使いますが、街の中でも木を植えていく、緑を増やしていくというアプローチは重要だと思います。また、干潟とか珊瑚とか、あまり今までアプローチされてこなかったブルーエコノミー、海側での二酸化炭素の吸収というところはリサーチが必要になりますけども定量的に効果を測定する、モニタリング・評価の仕方も含めて今後アプローチが進んでいくと思っています。脱炭素化については、2030 年ではなくて、2050 年といった長期的な視点もあり、ブルーエコノミーは少し時間かかるころかもしれませんが、これらも視野に入れながら入れてやりたいなというイメージで整理させていただきました。

(齋藤委員)

2030 年までの目標は、国としても 46、47 パーセント、CO₂排出量を削減するということを掲げていますが、県内の CO₂排出量は同じ水準で達成できそうだというような目算があるでしょうか。数値的にどんな感じかを教えていただけるとありがたいです。

(事務局)

これは今ちょうど議論中というところが本音です。例えば CO₂削減だと、国の計画があって、それに基づいて都道府県が作るということになっています。国の計画に合わせて去年に計画を策定した経緯がありますが、今年の 6 月ぐらいに菅総理大臣が思い切った目標値の上方修正を発表しました。国の方もそこから計画の改定作業を行い、数値目標が出てきたと

いう段階と認識しています。それを踏まえて目標値を含めた県計画の見直し作業を行っている状況と認識しています。こういったものが示された時には数値目標をもとにしながら意見をいただきたいと思っています。

(進行)

ありがとうございました。後で気づいた点ですとか、やはりここがもう少し気になるというところがありましたら、事務局の方にお寄せください。それでは第 1 回の地球専門部会の会議につきましては議事の方は終了させていただきます。皆様、活発な議論ありがとうございました。事務局お願いします。

(事務局)

本日ご議論いただいた内容につきまして、議事概要という形でまとめ、後ほど皆様にご確認いただいた上で県のホームページで公開させていただきますので、ご理解いただければと思います。また、意見お寄せいただくシートを後ほど送らせていただきますので、お気づきの点かご意見がありましたら後ほどお送りいただきたいと思っています。これをもちまして地球部会を終了させていただきたいと思っています。ありがとうございます。